

277, 何を表していますか?

市営住宅1,518戸のうち、使われていない空室戸数!

建物を長く使う「長寿命化10年」計画は、策定から7カ年が経過。

この間、「政策空室」の改善事業の予算が動いたのは、わずか2カ年。

「予算を計上しない計画」を、漫然と続け、「空室277戸」を放置。

公営住宅は、良好な管理と速やかな改善が法で義務付けられている。

河崎住宅、115戸

青木住宅、78戸

「改善事業に、金が掛かる。」、前市長の市政運営がもたらした負の遺産。「空室の放置」。

市営住宅の経営管理は、効率性が高い。先に投資した借金(元利)は、家賃収入を原資に返済している。

逆に、「政策空室」という名目で、使わない「空室」を「放置」している現状は、税収の損失となる。

河崎・青木住宅の、「政策空室」解消にむけた事業の具体化が急務だ。

四階建ての改善事業に

「エレベーター」導入せず

市は、河崎住宅の四階建て二棟の「改善事業」を着手した。

この二棟に、高齢化社会に順応した「エレベーター」の導入が無い。

市の「公共施設管理」に、「ユニバーサルデザイン」の意識が低い。

閉ざされた民主主義を改めよう!

あなたも、市議会に挑んでみませんか!

市長の「顔」・見えない

「委員会を選抜?」

改選後の議会で、「委員会」に市長・副市長・教育長の出席を求めない「会議」を開くことが決まった。

議会の会議に、市政の執行責任者と議員が議論を交わさないという「ルール」は、市長と議員を選挙で選ぶ市民の権利の否定につながる。馴れ合い議会は、自殺行為となる。

民主主義を閉ざす、

数の論理を改めよう!

議員の個人意見を否定

「議会報告会」

議員は、人それぞれに、生き方、考え方と選出基盤の絡みを背負いながら、議会の論戦に挑む。

議員の意見は、議員の政治生命を宿す政治信条(自由)であって、何人も干渉すべきものではない。

議会は、言論の自由が最大限補償される機関だ。その機関での発言の否定は、言論と表現の自由に反する。

市議会は、市民の視点で議論を!

- ※湊山球場敷地の活用と鳥大医のキャンパス問題。
- ※米子駅南北一体化と中心市街地の活性化問題。
- ※県営の産廃最終処分場計画と環境問題。

これらを、議会は「特別委員会」を設置して、集中審議すべきだ。

地方自治は

民主主義の学校!

地方分権・地方創生と、看板が揺れ動いたが、果実の実感は薄い。

「人民の人民による人民のための政治」という、「リンカーンの名言」は、現代の地方自治の原点だ。

今、地方議会の議員の出馬を巡って、「廃止した年金」と「報酬の高」の議論が再燃している。

真理は、健全な議論と活動の見える「魅力ある議会」が待望される。

市議会の健全化に、市民の監視を!